



ドクター板東の メディカルリサーチ

Vol. 133

～リオの風 楽しむライフ 音楽で～

<http://pianomed-mr.jp/>

2016年はオリンピック年。ブラジルのリオで五輪とパラリンピックが夏に開催された後、秋に国際学会が開催された。

私はプライマリ・ケア医学や家庭医療を専攻しており、この世界的組織が、世界家庭医学会(WONCA)である。数年毎に世界大会が開催されており、今回リオで87カ国以上、5000人以上が参加した。今回はこの話題について触れてみたい。

WONCA

私は今まで世界各地のWONCAに参加。今回のリオ大会にも1年前から申込みをしていた(図1)。

組織委員会とずっとメールのやり取りを続け、感じたことがある程度は予想していたのだが、何とも対応が遅く、回答が的確でないため、なかなか話が進んでいかない。

現地に到着して、ようやくわかった。当国の気候は暖かく、ラテン諸国の空気が雰囲気が醸し出される。



図1

進めてほしいと思う。ただ、せっかく遠路はるばるここまでやって来たので、「郷に入りては郷に従え」、ブラジルのおおらかな文化を楽しむこととしよう。

ヤンヤの喝采

開会式には数千人が出席し、驚いたことが(図3)。本学会の重鎮6名が登壇するたびに、サッカーで得点したとき「ゴール」と絶叫するように、大いに盛り上がるのである。

誰もが好きな音楽のリズムに合わせて、身体を揺すり雑談しながら仕事をしているようだ。会場の国際会議場は驚くほど広く、約100m四方の建物が6つも集まっていた(図2)。

受付が混雑している状況なら、普通はテキパキと



図2

また、ビートが効く音楽がよい。音を楽しみ、身体で感じ、皆がハッピーな気分になれるからだ。

一方、少し困ったことも。ヤンヤの喝采で会の進行が大幅に遅れ、主賓のWHOの先生の講演の際(図4)、聴衆がどっと退出してしまうことに。最後までお聴きして隣の会場にいくと、すでに懇親会は最高潮に達し、料理は「麦の雑炊」だけしか残っていなかった。



図3

糖質制限

今回私が行う仕事は3つ。まず「糖質制限食」で2000例以上の臨床経験を発表した(図5)。今までのポスター発表では、各自が印刷したポスターを学会会場まで持つてくるものだ。一方、今回はデータをあらかじめ学会事務局にメールで送付しておく、電子ポスター発表となる。

ピアノでプレゼン

次に、文化講演会的な企

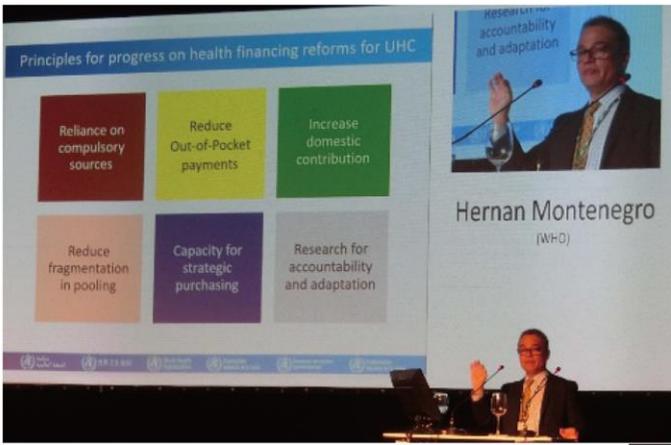


図4

画として「ピアノ演奏と音楽療法」のレクチャーを担当。クラシックやポピュラー、ジャズの各曲を演奏しながら、音楽がどのようにに我々の心に働きかけるのか、解説した。

図6は、誰もが知る行進曲として、メンデルスゾーンの結婚行進曲、シューベルトの軍隊行進曲、モーツァルトのトルコ行進曲、シヨパンの葬送行進曲など、エピソードを解説し演奏しているところである。



図5

3番目は、スペインの家庭医 Vilaseca 先生が歌うオペラ歌曲の伴奏を担当した。5曲を披露し、その中でもスペイン歌曲で広く知られる「グラナダ」は万雷の拍手で迎えられた。

イベロ・アメリカ

ここで言語と文化について考えたい。ブラジルはポルトガル語が、それ以外の南米諸国はスペイン語が使われている。その理由は、両国



図6

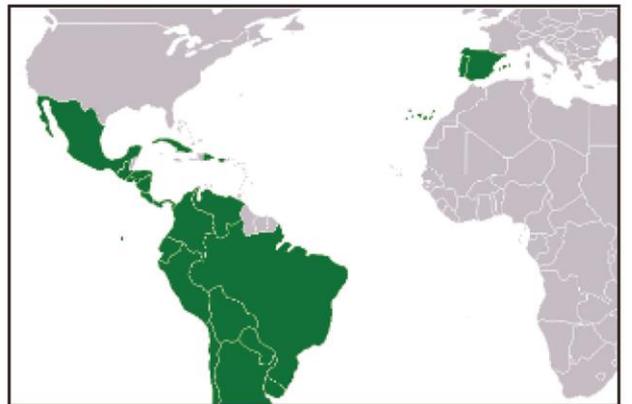


図7

の植民地だったからだ。

両国はヨーロッパのイベリア半島に位置し、英語では Iberian Peninsula、スペイン語・ポルトガル語では Peninsula Iberica と表記される(図7)。すなわち、イベリア半島と中南米の国々で文化圏が類似しており、'ibero-american' の W O N C A 大会が開催されてきた。

芸術や音楽には共通点が多い。アートでは、仮面や彫刻などで原色を使い、陽気または怖い雰囲気などが醸し出される。音楽では、各国でリズムカルなリズム



図8

で身体を揺らし、カーニバルで皆が踊る遺伝子が受け継がれてきている様子だ。リオで唯一サンバを楽しむ劇場(図8)は、静止画も動画も何でもOKで、広く宣伝してほしい。

今回ブラジルで、人々の心の中に存在する音楽のパワーと効用に触れた。リズムミカルで軽しい人生観も併せ、ハッピーに逞しく生きていくようだ。

(板東浩、ばんどうひろし、医学博士、糖尿病専門医、ピアニスト)